

## I. 【2023(令和五)年度の重点取組目標・計画の実施状況】

### 1. 地球温暖化対策（温室効果ガスの抑制）

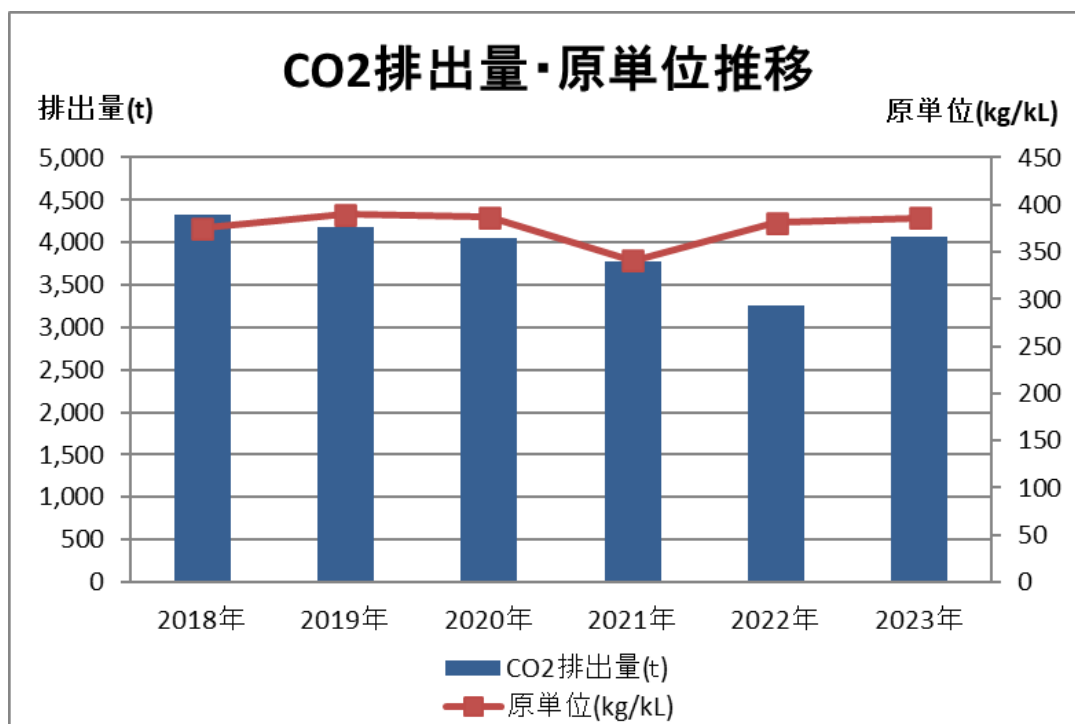
当社では、省エネルギーに努め、CO<sub>2</sub>排出量の削減、排出原単位の低減を図ってきました。また、2023年度の環境保全計画書において、2023年度の燃料、電力の使用量を2022年度比で、2023年度の醸造数量を分母とした原単位で1%削減することを掲げました。設備更新のため2022年度では長期休止していた工場が2023年度では再開したことに加え、CO<sub>2</sub>排出係数が26%増加したことにより、CO<sub>2</sub>排出量は24.6%増加しました。その結果、醸造量は23%増加したものの、排出原単位は1.3%増加しました。

排出総量は下表と下図の通りです。今後も実現可能な新たな目標を掲げ、CO<sub>2</sub>排出量削減に努めてまいります。

CO<sub>2</sub>排出状況の推移

項目	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
醸造数量 (kL)	11,551	10,735	10,469	11,065	8,561	10,533
CO <sub>2</sub> 排出量 (t)	重油・灯油	1,215	799			
	LPガス				44	70
	都市ガス	526	740	1272	1346	1,212
	電力購入	2,588	2,646	2,121	2,383	1,982
	軽油・ガソリン	0	0.9			
	J-クレジット 売却分			655		
	合計	4,328	4,186	4,048	3,773	3,264
排出原単位 (kg/kL)	375	390	387	341	381	386

[備考] 2019年12月にボイラー燃料を重油から都市ガスに変更した。また、2020年3月にフォークリフトは全数バッテリー型へ更新完了した。



## 2. 省エネルギーの推進

下表、下図にエネルギー使用量・原単位の推移を示しました。2022年度では設備更新のため工場の休止期間の影響により減少していた燃料、電力、用水ですが、2023年度には燃料、電力は増加に転じました。燃料総量は9.8%の増加とっていますが、醸造数量は23%増加した結果、原単位は10.7%の減少となりました。

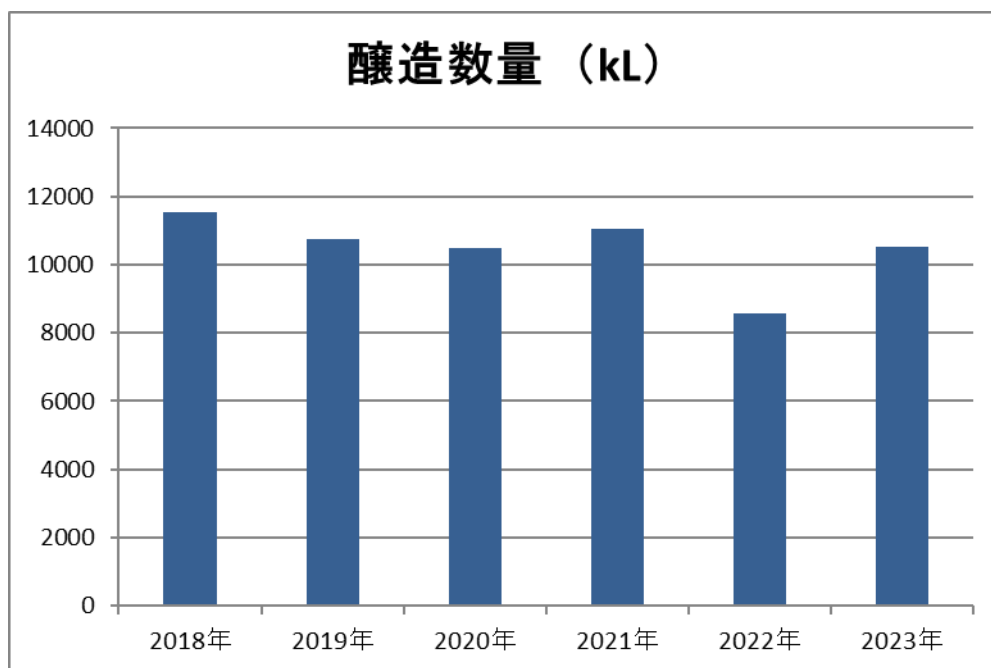
また、電力総量は5.5%増加し、用水については変化がなかったため、それぞれ原単位は14.2%、18.9%の減となり、目標を達成することができました。

今後も、エネルギー管理体制をより強化し、設備稼働の効率化を重点に省エネ活動を推進します。特に電力はエネルギー消費量の約70%を占めるに至り、高効率設備更新や電力ピークカット等の実効性のある節電対策を検討してまいります。

エネルギー使用量・原単位の推移

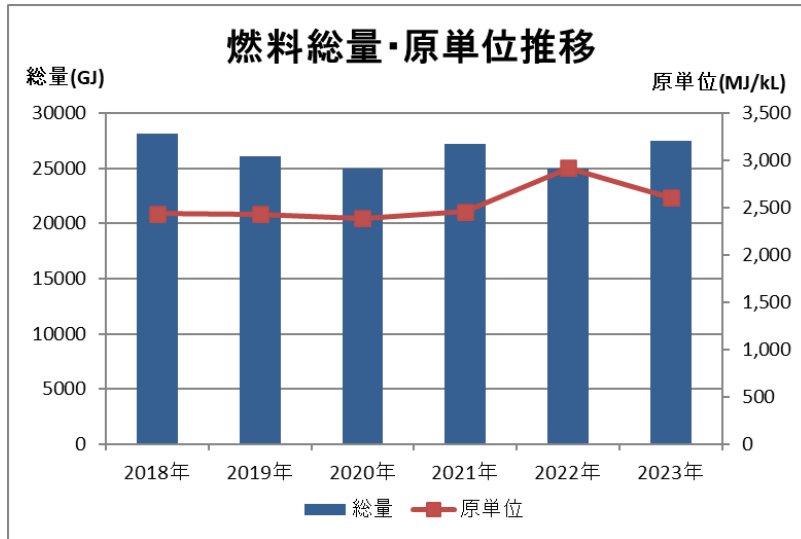
項目	単位	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
醸造数量	kL	11551	10,735	10,469	11,065	8,561	10,533	
燃料	総量	GJ	28147	26,096	24,994	27,192	25,007	27,469
	原単位	MJ/kL	2,437	2,431	2,387	2,458	2,921	2,608
電力	総量	千 kWh	5902	5,961	6,019	6,224	5,794	6,115
	原単位	kWh/kL	511	555	575	563	677	581
用水	総量	千m3	183	177	174	187	181	181
	原単位	m3/kL	15.9	16.5	16.7	16.9	21.2	17.2

醸造数量の推移

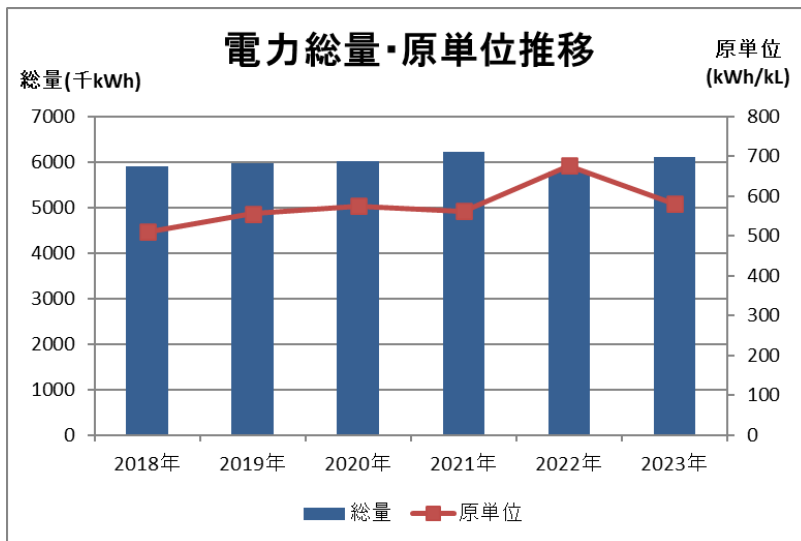


総量と原単位の推移

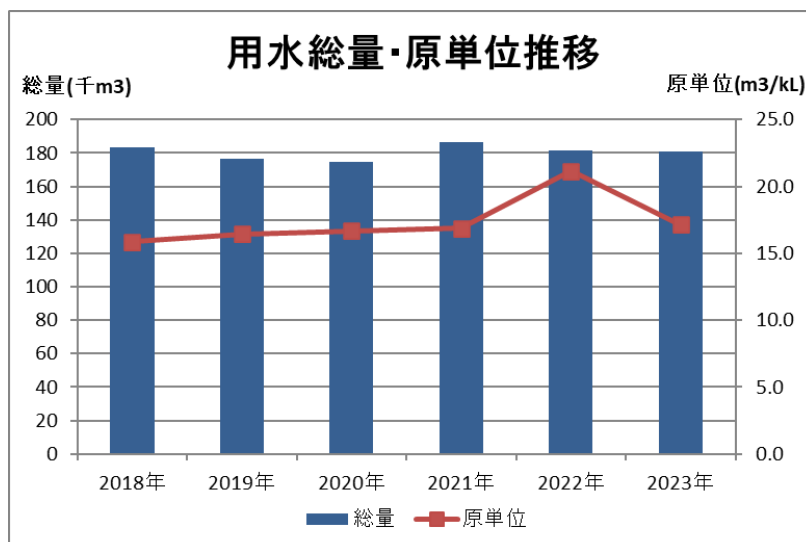
燃料



電力



用水



## II. 【公害防止対策に係わる報告】

### 1. 目標達成のために講じた措置・対策

目標項目		目標達成状況	講じた措置・対策
水質汚濁防止対策	排水水の水質管理及び汚濁負荷の総量管理	いずれの項目も法定基準値は満たしていたが、水素付濃度、生物学的酸素要求量、浮遊物質は目標値を超えたことがあった。(測定結果は2.の表に記載)。	排水処理施設の適正な維持管理に努めると共に測定計画目標値の順守状況を確認した。BODが基準を逸脱した際には神戸市に報告し、指示に従った。

2019年12月に重油ボイラーから都市ガスを燃料とした小型ボイラーに更新済みのため、排ガスの測定は実施していない。

### 2. 2023年度排水水の汚濁状態測定結果

法令排水基準設定項目 (生活環境項目)	項目	排水口	管理目標値	測定値		全測定回数	目標値を超えた回数	目標達成判定	法令基準達成判定
				最大	平均				
水素付濃度 (pH)	嘉宝蔵西	製品工場東北	5.5~	5.7~7.5	7.0	300	0	○	○
	製品工場東北		8.5	5.5~8.8	6.4	500	2	×	○
生物学的酸素要求量 BOD (ppm)	嘉宝蔵西	製品工場東北	1,500	1642	763	52	2	×	○
	製品工場東北		200	178	96	25	0	○	○
浮遊物質 SS (ppm)	嘉宝蔵西	製品工場東北	800	540	193	12	0	○	○
	製品工場東北		30	60	7.2	25	1	×	○
温度 (°C)	嘉宝蔵西	製品工場東北	45	29	20.9	300	0	○	○
	製品工場東北			39.2	30.4	500	0	○	○

[備考]・排除基準値 pH: 5を超え9未満、BODとSS: 2000ppm以下、温度: 45°C未満

- ・BOD値はCOD測定値を換算、嘉宝蔵西は自社分析と共に毎月外部機関に分析委託
- ・測定値最大の項でpHのみ最小~最大値を表示
- ・○: 達成、×: 未達成

## III. 【地球温暖化対策に係わる報告】

### 1. 2023年度における電気・燃料等の使用量、温室効果ガス排出量

活動の区分	燃料等の種類	使用量等【原単位】	単位	単位発量(MJ)	排出係数 kg-CO <sub>2</sub> /MJ	排出量 kg-CO <sub>2</sub>
使用燃料	LPガス	35,852【3.40】	kg	50.1	0.0597	107,198
	都市ガス	570,516【54.16】	Nm <sup>3</sup>	45	0.0509	1,306,482
電気事業者から供給された電気量		6,115,199【580.58】	kWh		0.434 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)	2,653,996

合 計					4,067,676
-----	--	--	--	--	-----------

[備考] 電気の排出係数は、省エネ法令和五年度温室効果ガス算定値を使用した。

## 2. 2023年度の計画達成状況

	前年度実績 (2022年)	今年度予定 (2023年)	今年度実績 (2023年度)
醸造数量 (kL)	8,561	11,000	10,533

温室効果ガス	前々年度 (2021年)	前年度実績 (2022年)	今年度目標 (2023年)	今年度実績 (2023年)
CO <sub>2</sub> (kg)	3,772,937	3,264,341	4,152,397	4,067,676

## 3. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

分野	項目	細目	目標	実施状況
エネルギー使用の 合理化	節電	昼休みの一斉消灯、食堂の利用時間及びエレベーターの使用制限、室内温度管理の徹底、扇風機の活用	燃料・電力使用量、および CO <sub>2</sub> 排出量を 2022 年度に比べ、2023 年度に醸造数量を分母とした原単位で 1 % 削減する。	燃料・電力使用量の原単位は目標を達成することができた。CO <sub>2</sub> 排出量原単位は CO <sub>2</sub> 排出係数増加の影響を吸収できず、目標を達成できなかった。
		ボイラーの管理標準に従った効率運転の徹底、蒸気使用設備の消費ロス低減		
製造工程における対策	燃料使用量の削減	ボイラーの管理標準に従った効率運転の徹底、蒸気使用設備の消費ロス低減	燃料・電力使用量、および CO <sub>2</sub> 排出量を 2022 年度に比べ、2023 年度に醸造数量を分母とした原単位で 1 % 削減する。	燃料・電力使用量の原単位は目標を達成することができた。CO <sub>2</sub> 排出量原単位は CO <sub>2</sub> 排出係数増加の影響を吸収できず、目標を達成できなかった。
	生産計画の見直しによる設備稼働の平準化、効率化の実施	各エネルギー設備の高効率運転、夏期の設備稼働制限、デマンド値の抑制		

## IV. 【公害防止対策、地球温暖化対策以外の地球保全活動に係わる報告】

### 2023年度の環境保全活動に係わる具体的実施内容

	分野	項目	細目	目標(前年比)	実施状況
1	節水	節水対策強化		徹底	微減
2	事業所等での廃棄物の適正処理・減量	分別回収	紙類回収専用箱及び空容器別回収コンテナの設置	徹底	ほぼ 100% 回収
		ペーパーレス化推進、コピー用紙の使用数削減、社内ネットワーク、プロジェクターの利用推進		徹底	継続
		集約印刷、裏紙コピー用紙の再利用		徹底	
		文具類の共同使用		徹底	

		廃棄物発生量の削減	再生利用、減容化の推進	徹底	継続
3	プラスチックに係る資源循環等の推進	使用不可能なパレットやP箱、ならびに排出される包装用透明フィルムのリサイクル		徹底	継続
4	事務所等での再生製品の使用	グリーン購入の実施	文房具、事務機器・備品	50%以上	ほぼ達成
		再生紙の使用促進	コピー用紙、パンフレット等の再生紙利用		
5	環境負荷の少ない資材類の選択、減量化	軽量容器の採用		随時	継続
		贈答ケース減容化、簡易包装の推進		徹底	継続
		ライスインキを紙パック容器の印刷に使用		随時	実施
		紙パック資材にFSC森林認証紙を使用		随時	実施
6	自動車対策	積載量の適正化	—	全車両	継続
		エコドライブ・アイドリングストップの推進	—	徹底	継続
		低公害・省エネ・軽四車への転換	—	買替時	実施
		トラック配送合理化	—	共同配送等の推進	継続
		自動車運転機会の低減と自転車利用の推進	—	徹底	継続
7	特定フロン、代替フロン等使用機器の管理	設備更新時、特定フロン非使用設備を導入	—	更新時	実施
		特定フロン使用機器の適正廃棄	—	回収の徹底	実施
8	環境施設整備	緑地の整備	—	構内既設全域	実施
		森の世話人活動	国土交通省六甲砂防事務所が主宰する六甲山系の森の保全活動に参画	随時	実施
9	従業員教育	省エネ提案の募集	社内提案制度キャンペーン実施	2回/年	実施
10	地域社会への参画	事業所周辺の清掃活動	—	毎週実施	実施
		住吉川清掃活動への参加	—	2回/年	実施
		蔵開放イベントの実施	—	1回/年	実施
11	品質保証システムの充実	ISO22000の維持・管理	内部監査の実施と監査員の育成	随時	実施